

## 平成27年度第1回うきは市総合教育会議 議事録

1. 日時 平成27年7月23日(木) 開会 14時 閉会 15時15分

2. 会場 うきは市役所2階庁議室

3. 出席者 うきは市長 高木 典雄

うきは市教育委員会

委員長 西見 修一

教育長 麻生 秀喜

委員 重岡 喜久子

委員 處 愛美

委員 内山 勝之

事務局関係 企画財政課長 金子好治 教育委員会学校教育課長 内藤一成 企画調整係長 樋口秀吉

4. 協議事項 (1) 教育施策の大綱について  
(2) 教育施策の重要事項の方向性について

### 5. 議事の概要

○開会

○市長あいさつ

「学習意欲の低下、家庭教育力の低下、地域の教育力の低下まで叫ばれています。先生や関係者のお骨折りはたいへんなことと推察します。本年は、地方創生元年で、人口減少に歯止めをかけ、東京集中を解消し、東京から地方へ呼び戻すことが求められています。現在、総合戦略づくりをおこなっていますが、教育への希望が多いと感じています。学力を伸ばす、社会を生き抜く力を養う、子どもが夢を持つことができる、夢を実現する行動力を育てることが大事・・・そのために必要なのが、すてきな笑顔と、自ら考え行動する力(表現力、コミュニケーション能力)だと言われています。次世代を担う子どもの成長なくして、うきはの将来はありません。このような教育関係者の皆様と意見交換することは初めての感がありますが、皆様の忌憚のないご意見を出していただき、しっかりと意見交換をしたいと考えています。」

○設置要綱の説明

○協議事項

□大綱策定方針について

首長の判断で、策定したい。会議の成果を大綱につなげていくことで了解。

□教育施策の重要事項の方向性について

#### ●市長

「若者をうきはに留めたい。東京からのIターンでうきはに住んでもらいたい。学力が低いならば、うきはの人も、教育に熱心な地域に出て行くかもしれない。学力って何、何をもって低いのか、現状がわかっていない面もある。」

#### ●西見委員

「思考力、判断力、表現力、夢を実現する力、社会を生き抜く力はとても大事です。学力向上と言われるけれども、学力とは何か。学力が低いという数値が出ている、しかし、その数値だけが一人歩きするのが怖い。最終的には、総合力でやっていくべきだろう。相対的な判断も大事だが、他の地域との比較ばかりでなく、その子の過去との比較で成長を確かめたい。実際は難しいけれど、数値だけではない。中学校のさらなる授業改善に期待したい。」

## ●市長

「現場のたいへんさはわかりますが、学力が低いというイメージが蔓延して、負の連鎖となっているような気がします。自然減では、年 276 人の出生が、今は 232 人で-16%。全人口が、34,101 人が 31,245 人で、-8%。赤ちゃんの減り方が大きい。離れる人と入ってくる人の社会減は、平成 26 年は大きかった。」

## ●重岡委員

「4 月から新教育委員会になった。3 年前、教育委員になった頃は教育委員会不要の風が強かった。多くの審議がなされ新制度が発足した。首長による教育長の任命、大綱策定。それはとても責任が大きいことであるが一方やりがいも大きい。市長として教育振興基本計画にプラスして、ビジョンを加えた大綱を策定してもらいたい。また今回総合教育会議が設置され、市長と直接意見交換ができるようになったことは良かった。これまで、教育委員会としての審議等、大筋は教育長に委ねてきた。今後もそうなると思うが、教育委員として自分はどんな役割を担うのか考えている。住民の声をたくさん聞いて教育に反映することを大事にしたい。」

## ●市長

「予算案件とか、この場でもいろいろ話せますね。」

## ●處委員

「教育委員に、市民が何を期待しているのか…自分の子が通っている学校への期待はあろうが。私は命の教育が専門ですが、市全体を考えることは難しい。学力って何？何をみているのか。リテラシー(能力)や社会を生き抜く力。基礎的能力が育たないと、社会を生き抜く力が育たない。命の大切さ、人を思いやる気持ちを育ててあげたい。『経験のない知識は、知恵にならない』という言葉がある。体験を教育に打ち出していくべきだと思う。学力が低いのは、わが子の時代も同じで、短年で解決は難しい。」

## ●市長

「特色ある教育の中で、生きる力を育む、その例が、千葉県流山市にある。キャッチフレーズが、『母になるなら流山市』。うきは流では『健康になるなら、うきは市』。教育を数値で測るのは難しいが、キャッチフレーズで何かを伸ばすことが大事ではないか。」

## ●處委員

「『子育てするなら群馬県』という時期があった。全学校に獣医師を配置。命の大切さや人への思いやる心を育てた。蔵内獣医師は全国会長になっていますが、その縁で私も活動しています、言葉と体験をからめて。今の子どもは体験が特に少ない。例として、家族旅行をしなさいとか(そこまで指導しなければ伝わらなくなった)、これも体験。新しい学習要領で、アクティブ・ラーニングが大事となっている。商工会と上海との交流で、上海の子はすごい、歴史・文化をよく話す。PR できる。コミュニケーション能力がすごい。」

## ●内山委員

「県下でも、学力が低い。小学校までは平均はいいが、中学校でいきなり低くなる。保護者は数値を気にする、見る。なぜ低下しているのか、調べてもらいたい。まず、抜き打ちで、中学校の現場を見てもらいたい。小学校は少人数教育、中学校は 15~25 人が望ましいといわれる。実際は、30 数名、教室が窮屈である。棚が教室外に出ていても、狭い。吉井中学校は特に狭い。スペースをとるか、クラスを増やすかを考えてほしい。集中して勉強できる環境を作ってほしい。保護者も、先生に投げやり(投げてばかり)。中学校になると、授業参観にも来なくなる。保護者の関心が低くなっている。大綱は、市民、先生、保護者にわかりやすく、みんな読んでわかるようなものにして、同じ方向を向いてやっていくことが、学力向上にもつながっていききたいと思う。行政担当課も、いろいろ教育に協力をしてもらいたい。保育園、小学校低学年からの教育が大事、親と子が一緒に育っていく共に育む共育が大事。先生が全部教えてくれる、保護者はクラブ活動には熱心だが、勉強に関しては熱心でない。保護者も一緒に学べる研修会が大事ではないか。」

### ●市長

「農業後継者不足の面で、勉強すると家を出て遠くへ行ってしまう(家を継がない)。外に就職してしまう」という人がいますが。

### ●内山委員

「それは、逆だと思う。学力をあげて、一度外へ出て、Uターンして成功する例は多い。」

### ●市長

「農家ほど、学力が必要だと思っています。」

### ●麻生委員

「学力は生きる上で大切。新しい時代を生き抜く力。環境が人を育てる。勉強をする子を育てる、プラス、子どもの意欲を高める施策が大事。またスマホの家庭教育宣言なども大切である。」

### ●市長

「寺子屋の活動が評判だが、家庭の教育力の低下、ひとり親家庭が子どもをかまわない、それに対し、自治協議会活動が波に乗ってくれば、地域の教育力の受け皿になると考えている。」

### ●麻生委員

「寺子屋の申し込みが148人と盛況。コミュニティスクールについては、自治協議会活動などを考えながら打ち出していきたい。今年は、御幸自治協議会が、夏休み寺子屋塾を展開します。」

### ●西見委員

「田主丸地区では、私が田主丸中に勤務していた頃、早朝、子ども(小・中)が公民館に集まって、勉強していた。6時～7時に勉強、7時から部活に行くというパターン。保護者が自主的に学習会を世話していたのがよい。吉井地区の一部でも20～40人ほどを集めて、学習の場づくりをやった。集めたら、子どもは来る、仲間と勉強できるチャンス→とにかく集めることが大事(地域で保護者が世話をした方が継続できる)。」

### ●重岡委員

「小さい頃から勉強するクセを親子で習慣化することが大事。遊林愛児園の学童の取り組みは良いと思う。(夏休みは誰でも行ける。早朝から幸福寺本堂を開放。子どもたちが各々やってきて宿題をする。その後学童へつながる。)。大石小学校は、家庭学習100パーセント(宿題したら、親のチェック)。自分の意志で学ぶ力を育てたい。親も一緒になって学べる環境をつくるべきだ。江南小学校も宿題忘れゼロを目指している。子どもだけでなく親も指導しなくてはいけない。小学校も必死でやっているの、効果が出て欲しい。」

### ●處委員

「親が、子犬を子にまかせる。子に責任を持たせる? 私は言います『子どもと犬を育ててください』。子どもの自主性に名を借りて、ほったらかしにする親。親が子どもの自主性を育てるべきです。」

### ●市長

「小学校は平均だが、中学校で、なぜあんなに学力が落ちるのか・・・」

### ●西見委員

「以前、小6の1～2月の試験では県平均より上なのに、入学してすぐに行われる中1の試験で県平均を下回る科目もあった。学習の定着度について検討することと併せて、小と中の問題を持ち寄り、小中合同の研修会で検討することも必要。私はかつて数学担当でしたが、「教科書通り、教科書だけの指導では差が付くこと」も経験しました。子どもの学習意欲向上のためには、教科書を主としながらも、子どもの実態に応じて教材・教具を工夫して、応用への手法を変えていく努力が大事」

### ●麻生委員

「小学校の学力がなかなか定着していない。考えて解く力不足。それは、考え方、読解力、教科書が分厚くなり、量も多くなった→子どもにとってよりよいモデルとなるような例えば、これまでにない大学設置とか、レベルの高い高校など、強烈にあこがれる教育的魅力がうきは市にほしい。」

### ●内山委員

「子どもが将来の夢をもてない。仕事の夢を描くことができない子どもたち。これをやりたい、目指したいもの……。コミュニケーション能力が低い。ゲームやテレビが好き、図を見て想像的、文章を読む力が育っていない、これが今の子の特徴。子どもの話す力が育っていない。ゲームをだまってやる。そういう感覚の子どもたち。ノーテレビデー、ノーゲームデー。外で遊ぶ場がない、公園でだまってゲームしている。」

### ●市長

「ダイハツのような、ようこそ先輩風に、最先端の技術に取り組む先輩と交流するのはどうか。子どもにはわからなくても、この人はすごい人だ、ついていけないかもしれないけれども、強烈な刺激を与えるもの。」

### ●麻生委員

「修学旅行も、ただの見学ではなく、いろいろな体験をさせることも大事になっている。」

### ●西見委員

「子どもは、本物の体験をしたいと思っている。上海との交流の例：当初は行く人10名に対し応募40名という年もあった。外国に行きたい、同世代と話したいという気持ちはたくさんの人が持っている。しかし、迎える側になると、応募が減る状況があった。ホームステイはよい経験の場。」

### ●内山委員

「中国の上海の中学校との交流はすごかった。英語、芸術力、オリンピック級の指導者。すごい人を見て、自分はまだまだ、やらねばという意欲が出てくる。小学校低学年までの、脳の形成の10歳までの教育は大事。大手ファーストフード店のコーヒーがなぜおいしく感じるか…小さい頃から味覚を慣れさせている。食育をきちんとしておかないといけない。」

### ●麻生委員

「中学校のランチルームはとてもよい。全員一堂に会する、これは、よい食育は、よいPRポイントになる。地産地消にもつながる。」

### ●事務局（学校教育課）

「学校設備の充実を考えてもらいたい。子どもの話す力、考える力を育てるためには、成績の数値だけでなく、いろいろな評価を見てもらいたい。学力が低いイメージもあるが、うきは市を担う子どもへの施策が大事です。」

### ●市長

「日本経済は低迷、日本の存在価値も下がる中、人材がポイントになっている。息の長い施策が大事。次は、テーマを絞り込んで、『特色ある教育とは何か』。委員さんのお考えも聞かせていただきたいし、回りの方の意見も集めていただけたら。うきはに適した市民総出の市民行動をやりましょう。」

### ●西見委員

「筑後地区でも、うきは市の小学校食育はとても進んでいる。うきはの特徴である、食の問題を考えていくことは将来に役立つと思う。県指定10年連続の実績もある。食育を通じて本物の体験をさせてあげたいと願っている。」

### ●事務局（企画財政課）

「確認事項ですが、大綱を作ること(今年度に策定)。次回協議は、いかに特色ある教育を打ち出すか。次回の総合教育会議は、10月、2月予定。」